

学校教育目標	かしこく やさしく たくましい子供の育成	経営理念	ミッション：確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく、主体的に取り組む児童の育成 ビジョン：「学んでよかった」「来させてよかった」と信頼され期待される学校づくり ○ワクワク感・満足感・達成感が味わえる授業を実践する学校 ○組織として機能する学校 ○お互いの思いを語り合えるコミュニケーション豊かな（働きやすい）学校
--------	----------------------	------	---

評価計画						自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方策	
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
							10月	2月						
確かな学力	1	確かな学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実現	確かな学力を身に付けさせる	・国語科・算数科を中心に、児童が考える楽しさを実感できる授業づくりに取り組む。	・児童の授業満足度85%以上 「できた」「分かった」「楽しい」	85%	89.3%		105%	3	・4.3%ほど上回り目標値を達成した。児童が考える楽しさを実感できるように「導入の工夫」「思考を深める問いの工夫」振り返りを意識して教職員一丸となって研究を進めた成果だと考える。また、友達との交流やICTの活用により満足度が向上している児童は、ともに92%を超えているため、授業づくりの大切なポイントとして教職員で共通理解を固めている。	B	・素晴らしい達成度だ。指導の継続を望む。 ・日頃のコミュニケーションに関する指導の効果を感じる。 ・達成感を味わうことができていない児童の存在を意識し、児童に寄り添い、関わりつつほしい。 ・児童には、学ぶ楽しさを感じてほしい。	・児童が考える楽しさを実感できるように「導入の工夫」「思考を深める問いの工夫」振り返りを意識して研究を継続していく。 ・達成感を味わわせることができていない児童の思いや学習上のつまずきを捉え、対話やICTを活用の際等で、個別支援を充実させ、授業の満足度を高めていく。
			学びの基礎の定着	・学力検査の分析に基づき、PDCAサイクルで取り組む。 ・学習上の課題をもつ児童への個別指導や個別支援の充実を図る。(放課後ルンルン教室・センタertime)	・国語科・算数科の全単元末テストの平均点80点以上	80%	国語科 84.3% 算数科 79.0%		101%	3	・単元末テストの結果は、国語科84.3%、算数科79.0%となった。算数科において、これまでの内容理解ができていないため、思考を働かせるための既有知識が十分入っていないことが考えられる。個別に手立てを講じる必要がある。		・(教科に関わらず)文章を理解する力が大切だ。 ・正しい書き順で漢字を覚えさせる必要がある。 ・算数科の応用問題に困難さを感じていると思われる。内容理解が不十分なままではなにか。心配だ。 ・中学校へも繋がることなので、頑張てほしい。	・学力テストの結果から、学年で挙げた重点課題に応じた学習をセンタertimeで取り上げる。 ・日々の授業において授業改善を行い、本時で付けた力に対応した指導や支援を通して、児童の「知識・理解」「思考力・判断力・表現力等」「粘り強く取り組む態度・学習に対する自己調整力」をバランスよく高めたい。
豊かな心	2	自他を尊重する豊かな心を育成	規範意識の育成	・生活目標の達成に向けて、指導方法の共有(黒瀬スタンダードの徹底・「時を守り 場を清め礼を正す」の継承) ・学級会活動、児童会活動を活性化させることにより、児童の意識を高める。(中小あいさつ強化週間等)	・児童アンケート肯定評価80%以上 ①「時間を守っている」 ②「進んであいさつをしている」 ③「整理整頓ができてい」(はきもの、机・椅子、身だしなみ)	①80%	93.62%		117%	4	・どの項目も80%の目標値を達成した。 ・「進んであいさつをしている」の項目は、他の項目と比べて低かった。前期中に一度、中学校の生徒会と合同であいさつ運動を行ったことで、児童のあいさつへの意識が高まった。また、児童会を中心にあいさつ運動に取り組む期間も、進んであいさつをする児童が増える等、取り組みの成果が表れている。 ・「時間厳守」については、特に、授業始まりは厳守する児童が増え継続できている。「整理整頓」は、置き物そろえを美化委員会の常時活動で確認し啓発したことで、定着してきている。 ・どの内容についても、学級担任からの積極的な指導が必要であり、後期以降も職員間でも規範意識の徹底が必要である。	B	・素晴らしい成果だ。先生方の努力を感じる。 ・最近、地域の人と話ができるようになった児童がいる。声をかけ続けることの重要性を感じた。 ・児童にあいさつの大切さを教えてほしい。 ・地域であいさつができる児童は50%程度である。学校と家・地域では、あいさつの仕方 に差がある。 ・「自分から進んで」あいさつができるようになってほしい。 ・落ち着いて授業を受けることが当たり前になればよい。	・児童会を中心に、校内で活発にあいさつし合うための運動を企画、実施するとともに、下校時に、担任から地域の人へ「自分から進んであいさつ」をするように指導をする。 ・【時間厳守】 ・学級や学年で、余裕をもって3校時の授業を始められる方法を児童に考えさせ、実行させる。教師も、大団円の過ごし方についてアドバイスする。 ・【整理整頓】 ・決められた物を決められた置き方でロッカーや机のフックなどに置くこと、自分も友達も気持ちよく生活ができることを確認し、継続させる。 ・【身だしなみ】 ・授業が始まる前に教師が声掛け、確認をし、児童自身が身だしなみを整える時間を確保する。
					・新体力テスト昨年度を上回る項目(6)以上	6	男子 7 女子 5		117%	3	・第5学年の記録は、男子が8項目中7項目、女子は8項目中5項目で昨年度の記録を上回った。男女とも数値の低かった項目は握力であった。女子は、「立ち幅跳び」「ボール投げ」も下回った。日常生活の中で物を握る機会や、さら下りの運動の機会が活かっていることが原因と考えられる。		・学校の取組により、よい結果が出ているので、維持してほしい。 ・瞬間的な運動は好きが、長時間の運動は難しいのではない。 ・教師が手本を示したり映像を見せたりして、具体的な動きをイメージさせることが大切である。	・「立ち幅跳び」「ボール投げ」については、ICTを活用し、児童に具体的な動きを伝え、技能を高める。 ・小運動場でもボール遊びができるようにし、低学年から柔らかい小さなボールを用いた投擲運動に取り組ませる。 ・体育科「数回運動」の単元を通して、教科にぶら下がり、身体を支えたりする動きの中で、握力の向上を目指す。
					・児童アンケート肯定評価85%以上 「運動することが好き」	85%	88.00%		103%	3	・「運動することが好き」と肯定評価をした児童は88%であり、目標値を上回った。ロング昼休憩や外で遊ぶDAYの時間を使って、おにぎりやドッジボールなどの外遊びをする児童が増えた。また、体育委員会が企画した休憩時間に体育委員と一緒に遊ぶ活動も月に1回設定し、外遊びをする児童の増加につながった。運動に対する肯定的な意識が育ってきている。		・積極的に体を動かすように仕組む必要がある。 ・外遊びの中には、「ボール投げ」を組み込む工夫があるとよい。 ・運動場でクラスで遊ぶ時間を増やすとよい。 ・地域でもっと外遊びをしてほしい。	・運動の習慣化については、家庭との連携も図りながら、長期休業も含め、家庭で体を動かすことのできる運動(ストレッチや縄跳び等)を課題にする。 ・夏季休業中の開放プールの中止が減るような時間帯を工夫して設定する。
健やかな体	3	調和のとれた運動能力の育成	自分の体力について、主体的に高めようとする態度の育成	・記録更新の喜びや運動の楽しさ味わわせる体育科授業を実践する。 ・外遊びを積極的に行うことができる環境をつくる。(週1回のロング昼休憩等)	・新体力テスト昨年度を上回る項目(6)以上	6	男子 7 女子 5		117%	3	・第5学年の記録は、男子が8項目中7項目、女子は8項目中5項目で昨年度の記録を上回った。男女とも数値の低かった項目は握力であった。女子は、「立ち幅跳び」「ボール投げ」も下回った。日常生活の中で物を握る機会や、さら下りの運動の機会が活かっていることが原因と考えられる。	B	・積極的に体を動かすように仕組む必要がある。 ・外遊びの中には、「ボール投げ」を組み込む工夫があるとよい。 ・運動場でクラスで遊ぶ時間を増やすとよい。 ・地域でもっと外遊びをしてほしい。	・運動の習慣化については、家庭との連携も図りながら、長期休業も含め、家庭で体を動かすことのできる運動(ストレッチや縄跳び等)を課題にする。 ・夏季休業中の開放プールの中止が減るような時間帯を工夫して設定する。
					・児童アンケート肯定評価85%以上 「運動することが好き」	85%	88.00%		103%	3	・「運動することが好き」と肯定評価をした児童は88%であり、目標値を上回った。ロング昼休憩や外で遊ぶDAYの時間を使って、おにぎりやドッジボールなどの外遊びをする児童が増えた。また、体育委員会が企画した休憩時間に体育委員と一緒に遊ぶ活動も月に1回設定し、外遊びをする児童の増加につながった。運動に対する肯定的な意識が育ってきている。		・積極的に体を動かすように仕組む必要がある。 ・外遊びの中には、「ボール投げ」を組み込む工夫があるとよい。 ・運動場でクラスで遊ぶ時間を増やすとよい。 ・地域でもっと外遊びをしてほしい。	・運動の習慣化については、家庭との連携も図りながら、長期休業も含め、家庭で体を動かすことのできる運動(ストレッチや縄跳び等)を課題にする。 ・夏季休業中の開放プールの中止が減るような時間帯を工夫して設定する。
信頼される学校	4	学校・地域・保護者が一体となって子供を育てる学校づくり	コミュニティ・スクールの推進	・CS連絡会を実施し、体験活動の締密に打ち合わせを行う。 ・学校の取組を積極的に情報発信(ホームページ、学校だより、CSだより)する。	①CS連絡会を月2回実施する。	①平均月2回	①平均月2回		100%	3	・春の遠足、5年米作り、4年福祉体験、3・5年防災教室、5・6年東広島市小学校館上記録会、スポーツフェスティバル、5・6年中黒瀬ふれあい農業祭に限り、各1～3回のCS連絡会を実施した。地域学校協働活動推進員から講師や協力者の紹介を受けた。当日の日程や準備、事前に児童に指導しておくことなどをきめ細かく打ち合わせたりすることで、児童の体験活動が充実した。	B	・地域活動を学校での活動に反映していく姿勢は評価でき、感謝している。 ・今後も、地域・保護者・学校が一体となって協力し合い、子供の力を育てていくべきである。	・生活科・総合的な学習の時間、社会科等で実施する地域の方との活動(交流、協働学習)については、「コミュニティスクール」「地域学校協働活動」の文言を適切に使用して発信する。 ・参観日以外にも保護者の授業参画の機会を設け、安全確保や技能定着のための授業支援ボランティアとして招く。 ・効果的な指導・支援をするため、教師から外部講師や保護者に学習・活動のねらいを伝え、授業中もコーディネートする。
					②毎月、学校だより、CSだより、ホームページ等で学校・学年の行事や活動の様子を伝える。	②月1回	②月1回		100%	3	・毎月の学校だよりや8・9月のCSだより、ホームページで地域学校協働活動の様子を写真や文章で紹介し、本校で育てたい資質・能力に触れながら、活動の意義やよさを伝えることができた。地域の人々の有用感が高まっているという声もいただいている。		・学校だよりは、学校内での児童の様子がよく分かり、助かっている。 ・終わった行事については内容を知ることができる。事前にも情報を得たい。	・学年だよりやHPで、行事に向けた取組や日頃の学習の様子を発信する。
		働き方改革の推進	教職員が健康で、何でも相談できる、風通しのよい職場づくり	・学年部を有効活用する。(情報共有、交換授業) ・放課後時間の確保をする。(会議の時間短縮、業務改善の推進等)	・教職員アンケート肯定評価85% 「本校の職場は何でも相談できる、風通しのよい雰囲気がある」	85%	92%		108%	3	・学年主任を中心に学年部内の連携を密にするとともに、各教員の強みを生かした役割分担をし、スムーズな運営ができた。 ・学期はじめ、学期おわりの午前中授業等、余裕をもった日程にすることで放課後業務の時間確保をできた。 ・会議の内容を精選、POIによる情報共有を行い、会議の時間短縮を行った。	B	・いろいろな難しい問題であるが、協力し合い、今後も頑張てほしい。 ・児童がいるときは、「まず、児童を第1に」で関わってほしい。 ・先生にゆとりの時間があればよい。	・児童が楽しく、落ち着いて学校生活を送ることができるよう、日頃の教育活動や保護者連携の充実させる。 ・各種会議は「協議の場」とし、伝達等は新たなICTの機能を適切に活用する。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価

4...目標を上回って達成

2...目標をやや下回って達成

3...目標どおりに達成

1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価(学校運営協議会による評価)

A...とても適切である

B...概ね適切である

C...あまり適切でない

D...全く適切でない